



『楽園のつくりかた』

笹生陽子／著
講談社

エリート中学生に突然転校の悲劇。とんでもない田舎の中学で同級生はわずか3人！ しかも決して親しくなりたいと思う人たちではない。自分のペースをなかなかつかめないぼくは、単身赴任中の父に不満のメールを送り続けるのですが…。



『ルリユールおじさん』

いせひでこ／作
理論社

ルリユールとは本造り職人のこと。ソフィーの壊れた植物図鑑がルリユールおじさんの手によって生まれ変わってゆく。その細かい工程の中には、職人の心意気が込められていた。小さな工房で仕事をする老人と少女の交流を描きます。本ってすばらしい！



『ローザ』

ニッキ・ジョヴァンニ／文
ブライアン・コリアー／絵 さくまゆみこ／訳
光村教育図書

ひとりの黒人女性がバスの中で白人に席を譲らなかつただけで罪に問われた。彼女の名はローザ・パーク。そのことが黒人の人権意識を目覚めさせる。彼女の気持ちが皆に勇気を与え、社会を変えていきます。読むほどに胸が熱くなる一冊です。



『わたしは生きていける』

メグ・ローゾフ／作 小原亜美／訳
理論社

心に傷を抱えた少女デージーは叔母の家に引き取られ暮らし始める。楽しい日々には心は癒され、やがてデージーは恋を知る。しかし、戦争という厳しい現実を迎え、逃避行と別離を余儀なくされ…。切なる思いを込めた衝撃のラストに誰もが涙する感動作です。